

第4回 新AI戦略検討会議 議事要旨

1. 日 時 令和4年1月24日(月) 16:00-18:00

2. 場 所 オンライン会議

3. 出席者※敬称略

【新AI戦略検討会議】

座長

北野 宏明 株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長
(AI戦略実行会議 構成員)

構成員

安宅 和人 慶應義塾大学 環境情報学部 教授、ヤフー株式会社 CSO
尾原 和啓 フューチャリスト、藤原投資顧問 書生
盛合 志帆 国立研究開発法人情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所 研究所長
ルゾンカ 典子 コスモエネルギーホールディングス株式会社 執行役員 コーポレート DX 戦略部
担当

【AI戦略実行会議】

構成員

神成 淳司 慶應義塾大学 環境情報学部 教授

【関係省庁】

平本 健二 デジタル庁データ戦略統括
大久保 佑美 金融庁総合政策局総務課係長
影井 敬義 総務省国際戦略局技術政策課課長補佐
川口 悦生 文部科学省研究振興局参事官 (情報担当)
高江 慎一 厚生労働省大臣官房厚生科学課研究企画官
松本 賢英 農林水産省大臣官房政策課技術政策室長
助川 洋平 農林水産省大臣官房政策課技術政策室課長補佐
湊谷 陽太 農林水産省大臣官房政策課技術政策室
高田 和幸 経済産業省産業技術環境局研究開発課産業技術プロジェクト推進室長
片山 弘士 経済産業省商務情報政策局政策企画委員
森久保 司 国土交通省臣官房技術調査課環境安全・地理空間情報技術調整官
伊崎 朋康 国土交通省総合政策局技術政策課 技術開発推進室長
加藤 学 環境省大臣官房総合政策課環境研究技術室室長

【事務局】

井上 諭一	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長補・内閣官房内閣審議官
根本 朋生	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官
塚本 武雄	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局上席政策調査員

4. 議題

(1)戦略目標の具体化等に向けた検討について

(2)その他

5. 配布資料

資料1 AI戦略2021の大目標と具体目標の一覧（事務局説明資料）

資料2 とりまとめに向けた検討資料（事務局説明資料）

参考資料1 新AI戦略検討会議（第3回）議事要旨

参考資料2 諸外国の公共部門における「AIによるガバナンス」の事例調査結果（令和3年12月27日 令和3年度第3回人間中心のAI社会原則会議【資料2】）

6. 議事要旨

(1)戦略目標の具体化等に向けた検討について

事務局から資料1、2に基づき、現行のAI戦略の骨組み、これまでの会議での議論の内容を説明。また目標設定のイメージ等を示し今回の議論のポイントを説明した。これに続いて北野座長から、新しいAI戦略の意図、概念が説明された。

この後、戦略目標の具体化等に関して議論がなされ、議論に基づき事務局にて関係省庁との調整、戦略のとりまとめを進めることとなった。

なお、議論においては次のような言及があった。

【戦略全般について】

- ・ どのような状態になりたいのかが明示されるべき。そこに向かうHowが戦略であるので、How以上にゴールでどうありたいのかが重要。ナショナルレジリエンス視点でシンプルに目指す姿を書くことができれば日本的で良いのではないか。
- ・ データドリブン社会の米のような、半導体、エネルギー、データ、クラウド、センサー等について考えることが重要でないか。一部を除き撤退モードであるが考え直しが必要。他力本願的にやっていると弱い。
- ・ キーになる・目標が立てられる・国の政策がインパクトを与えられるテクノロジーとして挙げられるものは、土木及び水道、電気等のインフラ、農業・食ではないか。
- ・ 全ての取組をAIのプログラムで実施する必要はない。デジタル庁や他省庁がそれぞれの取組で対応しているという形でよく、これらと連動性がある内容とする。他方、本戦略にて全体像や方向感を出すべき。

【国家および世界のレジリエンスの在り方について】

- ・ サイバーセキュリティに特化して取組を考えるのは良いと思う。ここは日進月歩かつ国家対国家の戦いのような分野。非常に重要であり人間の手のみでは絶対に戦えない。

- ・サイバーセキュリティに関しては AI で効率化できるところ、人手では対応出来ないところがあるため、ここに AI を導入する取組については多くのテーマがある。
- ・非レスポンスブルな人たちからどう社会を守るかという視点が必要。これはレスポンスブル AI 論のダークサイド。我々は裏側にも取り組み真にレスポンスブルな AI を目指すべき。
- ・プラネタリーなアジェンダに対するレジリエンスは、グローバルイシューのサステナビリティの言い換えでもありここは重要である。
- ・日本のことだけに取り組んででは駄目である。世界にどう貢献できるかが表に出なければリスペクトは得られずグローバルスケールでの勝負をかけられない。この結果ドメスティックな話で終わってしまう。
- ・レジリエンスについて3本の柱（プラネタリーレジリエンス、ナショナルレジリエンス、AI・サイバーレジリエンス）を立てはどうか。

【人材教育に関して】

- ・ローカル人材だけで対応する絵を考えがちであるがそうではない。国際的な人の出入りの活性化の視点を織り込むべき。
- ・出入りの活性化視点での問題意識は大学についても同じ。結局日本人が国際ネットワークに入っていないことが問題。AI は、分野自体が国際的、世界的に最先端のところ頑張らなければいけないため、国際的なネットワークのインナーサークルに入るといことは非常に大きな課題。AI 戦略特有の問題だと言える。
- ・AI とサステナビリティ等の分野で 1,000 人単位の留学生を外に出すべきではないか。中国はウミガメ族をつくって成功している。日本はキャッチアップのフェーズにあると認識し無理やりにでも広げないといけない。
- ・学生を送り込む話は頭脳循環に係る政策として打ち立てられると思う。
- ・国際的な交流・人材連携の話の一環として、阻害要因を是正するべきだとしてはどうか。
- ・商業高校、工業高校出身者等も国際的な交流・人材連携可能な仕組みが望ましい。
- ・人材教育については、この年度末までの新 AI 戦略における検討に限らず、将来的に更なる検討を要する項目として挙げる。

【技術開発に関して】

- ・トラストワージ AI、XAI、レスポンスブル AI の他に注目すべきものはプライバシーである。社会インフラにおいても、セキュリティに関わる部分が大きなネックとなっている。
- ・プライバシーの保護とデータ利活用はまだ完全解決には至っていない。しかしここ数年でかなり技術が進歩しており、研究開発から社会実装にステップが進んできている。この技術を活用する話は種々あり戦略に書き込んでいく技術として良いと思う。
- ・暗号化したまま処理する技術は今後もっと進むと思うので取り組むべき。専門家が 5~10 人程度必要。

(2)その他

次回会議は 2/24（木） 14:00~16:00 を予定。

以上